

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 6日

事業所名 児童デイサービスまはろ宮野湾志真志

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0	4	3	アスレチック遊具等広いスペースが必要となる遊びが多い為予めそれぞれの遊びで使用可能なスペースの範囲を決めたり時間を区切り使用したり、ケガ防止等に努めている。	利用児童が増え、各自がしたい遊びを行うスペースが不十分である。
	2	職員の配置数は適切である	0	3	4	保護者の了承を得て療育中の実績記入をやめ、全スタッフで療育を行う工夫をしている。	利用児童が増え、職員の数が不足している。児童一人ひとりに関わる時間が減り療育に偏りが生じている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5	1	事業所内は出来る限り段差をなくしフラットな状態にしている。	事業所が道路に面していることや駐車スペースが狭い為車椅子の乗り降りが難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	0	DCAサイクルを行う上で全職員の共通理解が必要になる為全職員で話し合い共有している。	時間が足りず話し合いがまとまらないときもある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	0	問題が生じたときにアンケート調査や送迎時に聞き取りをし、業務改善に繋げている。	より一層業務改善に繋げる為に問題が起こる前や定期的にアンケート調査を行っていく必要がある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0	定期的に公開している。	職員間でも共有していく必要がある。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	0	他事業所からのヘルプや研修を可能な限り行っている。	他事業所との意見交換等交流の場を増やしていく必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	5	1	新入社員は、他事業所へ研修を行い療育や事業所の様子に触れ学ぶ機会がある。	コロナウイルス感染拡大に伴い研修が減っている為、リモート等で対応できる研修に参加していく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0	主に管理者が計画作成を行っているが全職員で送迎時等保護者と関わる際にアセスメントを行う様にしている。	児童の数が多く、全職員が協力して分析していく必要がある。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の 提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	0	管理者が管理・使用している。	周知できていない為、全職員に共有していく必要がある。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	毎月の課題を全職員で話し合い決定している。	以前までは、1名の職員が作成していたが負担軽減やより多くの課題のアイデアを出す為に全職員で話し合うように改善した。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	3	0	毎月話し合いの中で新しい課題や児童たちのリクエストに応じていくようにしている。	上と同じ
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	0	0	休日・長期休暇は、時間に余裕がある為外出の課題を設定している。	休日は、外出の課題が多い為職員の休憩時間の確保が難しいと感じる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0	子どもの状況に応じて作成・変更を定期的に行っている。	児童の数が多く滞っているときもある為、全職員で協力していく必要がある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	毎朝必ず行っている。	前日や当日に課題の準備不足等があった為課題担当の割り振りを行い改善した。送迎のミスも全職員でチェックし確認するように事前にトラブルが起こらないよう対応している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	0	毎日行っている。	終礼時に全職員でその日の様子を振り返り対策を考えているが時間が足りないときもある為翌日や会議の時に再度話し合いの場を設けるようしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	療育後に全職員で話し合いながら実績記入している。	以前までは、療育中に実績記入を行っていたが、ケガ防止の為療育後に記入するようになってからは、話し合ってから記入することで気付かなかった児童の様子や支援について明確に記録を取れるよう改善された。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	主に管理者が行い判断している。	モニタリング前に児童の気になる事や最近の様子等全職員で話し合い管理者へ伝えていく事で、多角的な視点で行えるようになっていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	0	0	児童一人一人に合った自立支援や季節に合わせた課題、児童同士協力する課題を行って支援している。	地域の方との交流する場が無く、ボランティア活動等社会と関わる機会を増やしていく必要がある。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	7	0	0	子どもの支援計 画書等を作成し ている児発管が 参加している。	日頃から子供の様子を職員間で共有してい る為改善することはない。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	6	1	0	常に学校と連携 しトラブルが無い ように努めてい る。	下校時間の変更等は保護者にも協力しても らうべき。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	1	4	2	現時点では重度 の児童がいな い。	医療的ケアが必要な児童を受け取る受け入れ る際には体制を整えていく必要がある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	7	0	0	保護者との会議 を通して情報共 有を行っている。	現在の学校での様子も定期的に情報共有し ていく必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	7	0	0	これまでの活動 内容や児童の特 性等細かく情報 提供している。	新しい環境で過ごしていける様情報提供を しっかりと行っている為改善することは特に ない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	4	3	0	コロナ禍で行う事 で来ていないが、 以前までは研修 等に参加し助言 を受けていた。	リモート等で出来る限り行っていく必要があ る。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	2	地域の公民館や 公園で課題を 行っている。	公園の課題の際に数名の児童が障害のない 子どもと一緒に遊ぶ場面はあるが直接的 に関わる事が難しい児童もいる為児童の様 子を見ながら検討していく必要がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	4	3	0	コロナ感染防止 の為控えている。	リモート等に対応可能であれば積極的に参 加していく必要がある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	7	0	0	会議や送迎の際 に保護者と子ど もの様子を共有 し子ども一人ひ とりの支援を見 直している。	職員間でもしっかり共有している為改善す ることはない。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	5	2	0	保護者の抱えて いる困り感を聞 いた際には事業 所での成功例を 提示する等して いる。	保護者が子どもの問題に気づいていない ケースや悩みを打ち明けられないケースも ある為日頃から保護者と関わりを増やして いく必要がある。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	7	0	0	契約時に行い、 質問があった際 にはその都度説 明を行っている。	難しい説明や一度では理解が難しいもの もある為簡潔にわかりやすく説明できるよう にしていける必要がある。	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	7	0	0	送迎時や会議等 を通して行っ ている。その場 で対応が難しい 場合は職員間で 意見を出し合い 保護者に適切な 助言を行えるよ う努めている。	適切に行えている為改善する必要はない。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6	0	以前は、長期休みの時に父母の会の活動支援を行っていたが、コロナ等の観点から行う事を控えている。	保護者の子ども理解の為に普段の事業所での児童の過ごし方を直接保護者に見て頂ける機会を作っていく必要がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	職員間で共有し迅速に対応している。	職員間の共通理解でより迅速に対応できる為大まかなマニュアル等を作成していく必要がある。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	0	毎日ブログを通して児童の様子や活動内容を発信している。	毎日発信している為改善する必要はない。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	ブログでは、契約の際に写真掲載の許可を必ず取っている。	十分に注意している為改善する必要はない。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	児童の特性に合わせ視覚的な支援を多くし配慮している。	時間の切り替えが難しい児童が多い為時計を見て行動できる支援をしていく必要がある。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	0	4	3	コロナ以前は行うことが出来ていた。地域の施設を利用している為事業所の認知は行えている。	人との関わり方・コミュニケーションの取り方等療育していき、実践に繋げていく必要がある。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0	会社で各事業所統一されたマニュアルを策定している。	マニュアル策定はしていると思うが、周知が出来ていない。また、コロナの感染症対応マニュアルを迅速に策定し周知していく必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	定期的に避難訓練を行い、火災訓練では消火器の使い方を教えてもらい、地震訓練では避難場所まで実際に歩いて行く等必要な訓練をその都度行っている。	十分に訓練を行っている為、改善する必要はない。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	0	研修の機会を確保している。法律改正の内容把握も職員間で行い適切な対応をしている。	法律が徐々に厳しくなっている為注意を払わなければならない。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	0	職員間で注意が必要な児童の様子を共有し、保護者に説明し同意書を交わしている。	日頃から児童と関わる職員が話し合い決定していく事が最善な方法である為職員間で十分に話し合う必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	0	医師の指示書がないときもあるが、保護者と話し合い対応している。	職員間でも共有している為改善する必要はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	作成し共有する為ファイリングしており、いつでも職員が見られるようにしている。	保管し共有している為改善する必要はない。